

## 8 南薩の特色を生かした水田の生産性向上と地域営農の仕組みづくり

### 成果の要約

- 1 春そば＋大豆体系及び早期水稲＋キャベツ体系の経営が確立され、水田の高度利用が図られつつある。
- 2 経営分析、部門別収支の把握支援により支援集落営農組織ごとの課題(経営・技術)が明確になり、具体的な改善策を提案できた。
- 3 大豆におけるドローン利用の防除体系案が作成され、金峰町スマート農業推進組合が散布を行う体制ができた。

### 1 対象

- (1) 南九州市川辺地域集落営農組織連絡会  
農事組合法人4法人、任意組織 6組織  
金峰町スマート農業推進組合  
南さつま市宮崎農業生産組合

その結果、組織体制、経営内容、労働力、栽培技術の項目毎に課題抽出と改善策の提案ができた。

### 2 課題を取り上げた理由

- (1) 水田活用として、大豆、そば等が生産されているが、湿害等で反収が低い。春そば＋大豆体系、早期水稲＋露地野菜体系などの作付体系を推進し、水田の高度利用を図る必要がある。
- (2) 円滑な組織運営と発展段階に応じた継続的な支援を行う必要がある。
- (3) 集落営農組織では、高齢化による生産力の低下等の状況が見られるようになってきているため、スマート農業技術の普及により、省力化を図る必要がある。



写真1 個別相談会の様子

また、大豆の単収向上対策として、研修会を開催し、病虫害防除や排水対策の必要性について指導した。

### 3 活動の内容及び成果

- (1) 水田の高度利用と作物の生産安定  
そば生産組合において、春そばの収穫等について生産履歴や気象要因をもとに研修会を行った。  
水稲栽培講習会等において病虫害対策と栽培管理について指導を行った。後作のキャベツでは、育苗講習会や現地検討会を通して栽培管理の徹底を図った。
- (2) 地域営農の仕組みづくり  
4法人及び5任意組織に個別経営相談会を開催した。経営分析結果の説明後、現状と課題及び今後の方策等について相互検討を行った。



写真2 大豆栽培研修会

法人については、個別に課題に応じて支援を行っている。部門別収支や労働時間を把握し、新たな品目（早期水稲（WCS）、二条大麦）や輪作体系の提案による作付計画の作成やロードマップの作成・見直し等を支援した。理事会においては、従業員の参画について提案し、栽培管理や経営改善について情報共有がスムーズになるように組織体制整備について支援した。



写真3 理事会の様子

1 法人については、年間雇用体系の確立のため、労働力に余裕のある次期の高収益作物（レタス）の導入を支援した。



写真4 レタスの導入

また、6 次化に取り組んでいる集落営農組織の経営改善支援を行った。

甘酒米麴の自家製造にあたり、保温器による温度管理が難しかったため、米麴製造機「こうじくん」導入の支援を行った。

温度管理の自動化により、人件費の削減にもつながり、利益の増加が期待される。

1本当たりの製造原価 及び利益	保温器					こうじくん				
	利益	製造原価 合計	材料費	資材費	労務費	利益	製造原価 合計	材料費	資材費	労務費
生甘酒(420円(税抜き))	233	187	85	63	39	250	170	67	63	40
生酒(280円(税抜き))	134	146	55	59	31	145	135	43	59	33

温度管理が難しい（手動）



保温器

温度管理が確実（自動）



米麴製造機「こうじくん」

(3) 中山間地域におけるスマート農業技術の導入

南さつま市農業公社が受託調整組織となり、作業オペレーターの金峰町スマート農業推進組合がドローンによる共同防除を本年度から実施する体制ができた。7.4haを2時間で散布でき、大幅に散布時間が減少できたため、省力化につながったという意見が多かった。



写真5 ドローンでの防除の様子

#### 4 今後の課題

- (1) 早期水稲の病虫害防除による品質向上及びキャベツの育苗技術の改善指導などによる収量確保への支援が必要である。
- (2) 集落営農組織の経営安定のため、引き続き個別課題を明確にし、具体的な改善策を提案する必要がある。

また、新たなリーダーの確保・育成により、世代交代による経営継承を図る。

- (3) 繁忙期のオペレータの確保や他作物へのドリフトを回避するための対策等を検討し、地域の効率的防除を支援する。

#### 5 担当した普及職員（○はチーフ）

福山，和田，前田，○岩崎，三角，橋口